

誌

西南学院大学

図書館報

No. 31 昭和41年5月11日発行 西南学院大学図書館

創立50周年記念号

現図書館の内部▶

部門別開架閲覧制度を採用

開架冊数 約5万冊

座席数 220席

明るい自由な雰囲気の中で

読書を楽しむことができる



50周年記念にあたって

図書館長 坂本重武

西南学院図書館に受入れられた最初の本、すなわち、登録番号1の図書は御木本隆三著「ラスキン研究」で、登録の日は大正13年12月4日となっている。それから約40数年の歳月が経過して、西南学院大学図書館本館の蔵書冊数は40年度末において、93,131冊に達した。これに神学部23,436冊、短期大学部の5,836冊、学術研究所の17,261冊、高等学校の13,942冊、中学校の6,086冊を加えるならば学院全体の図書冊数は159,692冊となる。まことに地上にまかれたいとも小さい種が鳥の宿るような大きな樹木にまで成長した感があり、心から感謝せざるをえない。しかし、わたしたちの思いは過去よりも、現在よりも、むしろ、将来にある。

現在の大学図書館は昭和29年に建築されたもので、その図書、雑誌、その他の資料の収容能力はすでに限度に来ている。それで時あたかも50周年に当たっているので、その記念事業の一環として新図書館の建設の案が進められてきたわけである。新図書館は中央図書館および学生のための図書館のふたつの性格を持つようになるものと思う。その場合の現在の図書館は研究所のもとにあって、研究図書館、もしくは専門図書館の性格を持つようになると思う。このように図書館が充実することによって、わたしたちの大学の学問研究がいやが上にも進展することをわたしは心から願ってやまないものである。

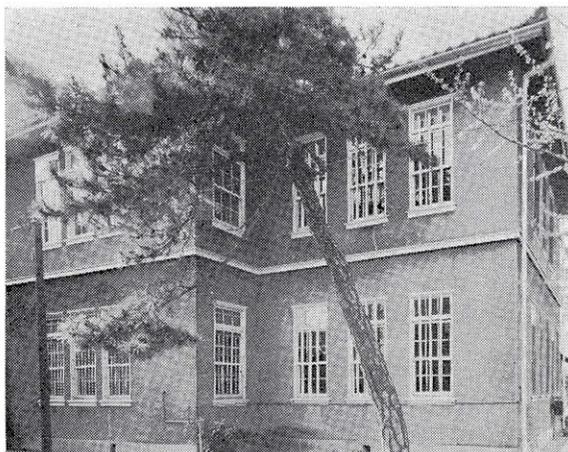
特集

目で見る図書館の歴史

■ 第1期 図書室時代

—西南学院開校より昭和17年まで—

大正5年4月 西南学院開校。教室の片隅に図書が並べられた。
 大正12年4月 西南学院図書館創設。仮図書室設置。
 大正13年12月 高等学部本館に図書館附属書庫を増築。図書原簿登録開始。
 昭和7年4月 図書室を中学部校舎に移転。
 昭和13年4月 西南学院図書館規則制定施行。



▲大正13年から昭和7年までの図書室外観（現児童教育科校舎東端）
右端の入りこんだ部分の一階



◀昭和6年4月頃の閲覧室の一部
図書室（書庫）と閲覧室と交替したときのもの

図書館創設の頃の事情は余りはっきりしない。僅かに残る当時の記録から見て、図書室としての体制が一応整い、図書掛の職制を定めたのは大正12年頃と思われる。西南学院一覧の大正13年版によると、大正12年には、図書費は3,258円94銭で総経常費の4.5%を占めており、図書の充実に相当力が注がれていたことが知られる。

図書の増加とともに、大正13年12月に、高等学部本館に教室1室及び図書館附属書庫1室の2階建が増築され（写真参照）、同時に図書室規定が制定された。それによると、

- 「第1条 図書室ハ本学院ノ図書ヲ収蔵スル処トス。
 第8条 借受ケタル図書ハ二週間以内ニ返納スベシ。
 第11条 借受ノ期限ヲ過ギタルモノハ一日ニツキ過愈

金トシテ拾銭ヲ徴収ス。

- 第13条 図書室内ニ閲覧室ヲ設ケ職員及ビ学生生徒ノ図書閲覧所ニ供ス。
 第14条 閲覧室ハ休日ヲ除ク外正午ヨリ放課後1時間之ヲ開ク。」

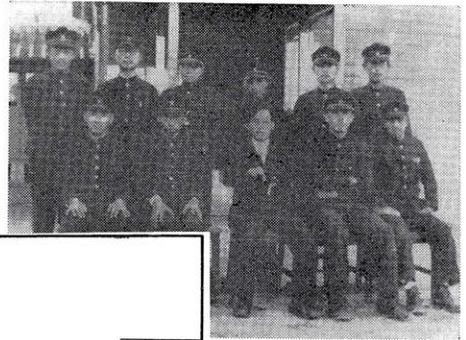
となっており、当時の模様が偲ばれて面白い。

その頃図書係を担当されたのは小野兵衛教授で（後、昭和8年初代図書館長に就任）図書館に関する研究をされ、十進法による分類の採用や索引（冊子目録）の備え付けなど図書館の整備を図られたとのことである。

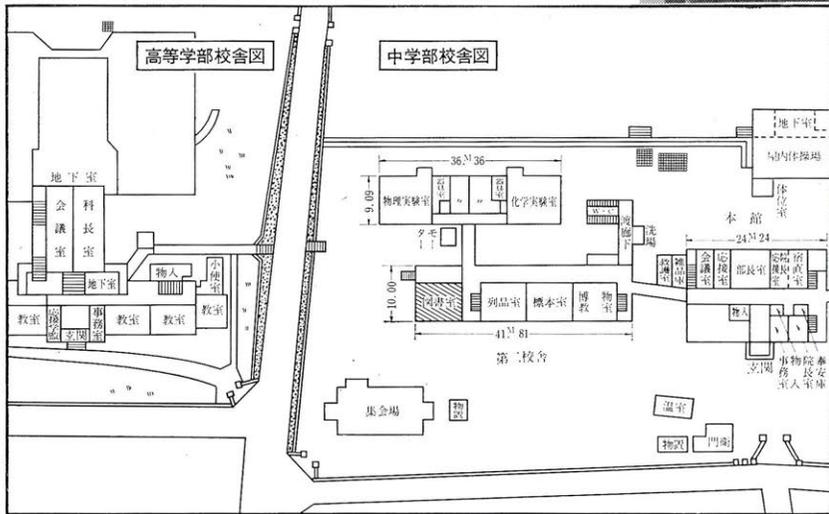
大正15年から昭和13年まで図書室に勤務された丸岡正介氏は当時を回想して次のように語っている。

【次頁へ】

丸岡図書係と中学部図書委員▶
昭和8年頃図書室入口にて



▼当時の図書室の位置
中学部校舎の西端（斜線）



【前頁より】

「私が卒業と同時に図書係として正式に奉職しましたので、種々改善を致しました。第一に書庫の移転と閲覧室の完備でした。従来の図書室(書庫)が明るいので、この部屋を閲覧室にして書庫を隣りに移しました。閲覧室に大テーブル3台を備付け、索引もカードに改めました。昭和7年の頃と思いますが、高等学部教室が不足したので、図書室を中学部校舎の西端の1階の教室に移しました。中学部の教室は、高等学部のそれに比して広くは

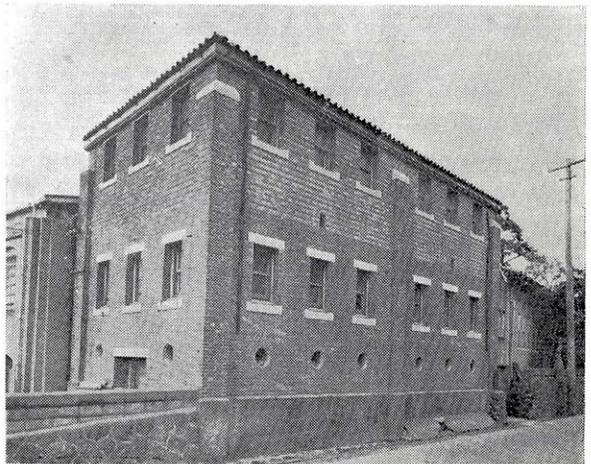
ありましたが、それでも壁側は天井まで書棚を作り収容しました。勿論閲覧室などありませんでした。この状態では、第一に図書館としての機能を発揮できませんし、第二に火災の危険性があり、若し火災があれば約2万冊の書物が灰燼に帰するという害に危険千万な状態だったのです。このような状況に対して図書館の独立ということが急務となったため、20周年記念事業として図書館の建築が計画されたことと思います。」

■ 第2期 閉架式図書館時代

—昭和17年より29年まで—

創立20周年記念事業として
建築された旧図書館 ▶

(通称 赤煉瓦書庫)
竣工 昭和17年3月(書庫)
昭和17年10月(閲覧室)
総面積 347㎡
総工費 32,000円





赤煉瓦書庫・閲覧室建設の思い出

—杉 本 勝 次—

その頃のことは今では私が一番よく知っておるだろうというのだけれども中々明確には思い出せない。大体本筋のところは田口欽二君の「西南学院図書館略史」や丸岡正介君の「回想記」に記されておるものが骨子をなしておると思う。あの建築を施工したのは馬場組の馬場松夫氏であったし財布の紐は藤井政盛氏が締めていたし、その藤井氏が今世に在らば思い出の糸を繰ることも出来ようものとその俤を偲ぶのである。あの建物は記録にあるように学院創立20周年の記念事業として営まれたものであった。20周年は昭和11年である。記念事業期成後援会を作り募金目標30万円（国内で10万、アメリカで20万）と相当大がかりな計画で、募金趣意書は私が作文した。概略の設計図も出来ていた。当初の計画では、図書館は実はその一部であって、むしろ中学部、高等学部の校舎を鉄筋コンクリート建に改築するなどが主体であったのだけれども、その翌年の12年には日支事変が勃発して事態は急変、アメリカでの募金はダメになった。しかし国内での募金は比較的順調に進んで6万円ばかり集まったので、それを以て赤煉瓦の書庫（竣工は17年3月）や木造の閲覧室などが出来たのである。

西新小学校へ行く道一中学部と高等学部との間の南北の通路はもとは狭かったが、それを拡げて塀も今のように整備したのも恰度その頃であったかどうか定かに記憶しないけれども、今も残っておる善の元寇防塁址の碑石を置いたのはたしか書庫の建設と同時期であったように思う。今は大学が西の方に在って、あの道はめったに通らぬ道になり碑石に目を留むる人も少ないかも知れない。あのまづい字も私が筆をとったものであった。

私が高等学部長に就任したのは昭和12年であったが、風雲は年を追うて急を告ぐるに至った。あの赤煉瓦の建物は西南50年史の恰度中心点に立つモニュメントだ。〔元本学院高等学部長〕

独立の建物ができ、規則も整備されて、図書館としての実質的な活動が始まったが、それから現図書館が完成する昭和29年までは、いわゆる戦中戦後の苦闘の時期であった。戦時体制の強化による学院への圧迫の手、終戦後の混乱、それに両時期を通じての図書の払底と、図書館は細々とした活動しかなしえない状況にあった。当時の図書館長坂本重武教授の言葉を借りると正に「書庫守り」の時代だったのである。

従って終戦後、故波多野培根先生の2千数百冊の蔵書が寄付されたことは、当時の図書の欠を補う大きな力となったのである。

やがて昭和24年、新制大学への昇格が行なわれるに及び、図書館の整備充実が急務となり、八田薫、次いで中沢慶之助両図書館長の苦心によって図書購入費の飛躍的増額（前年の18万円から95万円へ）や、職員の増強などが図られることとなった。また、木村秀明氏が最初の司書に就任して、立ち遅れた図書館の近代化に乗り出し、日本十進分類法の採用、カード目録の整備統一、増加リス

トや図書館ニュースの刊行など一連の多彩な活動が展開された。時あたかも国会においては、「図書館法」が昭和25年に成立、アメリカの影響の下に我が国の図書館活動もようやく盛んとなってきた。学院図書館も日本図書館協会や私立大学図書館協会の一員として加盟し、また九州大学における司書講習会に職員を参加させてその質の向上に努め、内容の充実を図ったのである。

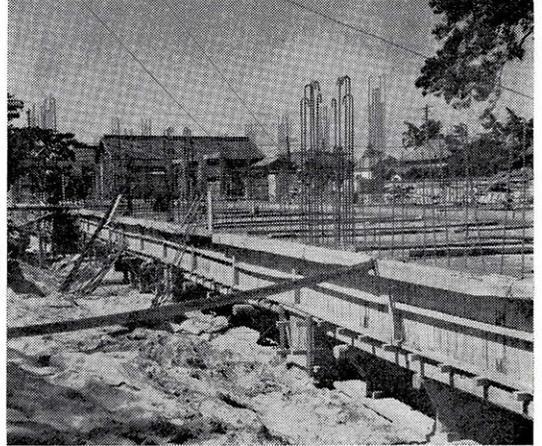


旧図書館の閲覧室外景▲ 閉架式 座席数60席

■ 第3期開架式図書館時代

—昭和29年から現在まで—

赤煉瓦書庫も次第に狭隘となるとともに、このままでは大学の設置基準にもそわないので、新図書館の建設が強く要望されるに至った。先ず大学新館の中に、リザーブド・ブック・ルームを開設して開架式閲覧への試みがなされた。ついで昭和29年9月、中村弘図書館長のときに、アメリカ・ミッション・ボードの寄付によって鉄筋コンクリート三階建の近代的開架式図書館が完成したのである。



▲建築中の図書館

◀現図書館全景

昭和29年1月着工

同年 9月竣工

設計監理 ヴォーリス建築事務所

施工 株式会社社組

総面積 1953㎡

(図書館 1285㎡ 研究室 668㎡)

総工費 48,000,000円

開架式図書館としては、西日本最初のものであり、またそれぞれの内容による部門別閲覧制度を採用したため、各地から見学者が相次いで訪れた。昭和30年6月には、私立大学図書館協会関西支部会が新図書館で開催され、開架制度に関する研究がなされた。昭和30年度は図書費も約290万円が与えられ、前年度の倍以上となり、職員も専任・アルバイトあわせて11名と増強され、また講習会・研究会による職員の教育も行なわれ、新図書館の体制は着々と進められて行ったのである。

この図書館報が、一時中断された図書館ニュースに代って学生へのPR誌として復刊されたのも昭和30年5月である。学生の利用が一段と高まっ

たことはいうまでもない。入館者、貸出図書ともに5割以上の増加を見たのである。

これまで図書の貯蔵庫としか考えられていなかった図書館は、こうして図書の積極的な利用を第一義とする方向へと脱皮することとなった。翌31年9月、学院創立40周年にちなんで、田口司書が「西南学院図書館略史」を編纂して図書館変遷のあとを辿った。

この間、里見安吉・船越栄一各図書館長の努力によって次第に新制度の体制は整備され、次いで昭和35年4月、木村毅図書館長のときに、図書館は新たな変革を遂げることとなった。即ち、学院図書館の大学図書館への移行がそれである。中学

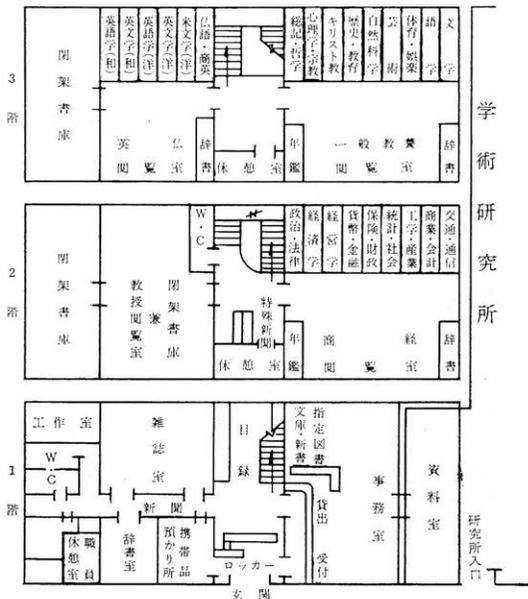
・高校生を受け容れる余地が無くなってきたことと、大学と中学・高校では図書館として果すべき機能にも自ら差異があり、一緒にの管理が困難となったからである。移行とともに、図書館の一部が改造され、携帯品預かり所が設置されて学生の携帯品持込みが禁止された。開架制度に伴ないがちな無断持出しなどの事故を防止するためであった。

また、九州大学や県立図書館などの要請に応じて、司書・司書補・司書教諭の講習を実施し、図書館職員の養成の一助を果しえたのもこの年のことである。

こうして次第に伸びてゆく図書館は、当初10万冊の予定で建築された現在の建物を、もはや場所的に狭いものとしてきたのである。昭和39年就任された現図書館長坂本重武教授を中心として、今新しい図書館の建築が計画されつつある。思えば誠に大きな進展である。

現在、西南学院大学図書館は本館のほか、神学部分館・短期大学部分館を有するが、その各々の概況を右に示すことにしよう。

大学図書館本館見取図



西南学院大学図書館現況

(41. 3. 31現在)

＜本館＞ 福岡市西新町 西南学院大学構内
 施設 鉄筋コンクリート3階建、総面積1285m²
 閲覧室5室、書庫3室、座席数238席
 蔵書 図書93,131冊(和書68,303冊 洋書24,828冊)
 うち開架約50,000冊 雑誌610種 新聞49種
 視聴覚・マイクロ資料265点
 大学紀要・論集600種(学研)
 図書費 昭和41年度予算2,250万円
 職員 館長 坂本重武
 司書長 山下和夫
 係長 杉本善夫
 " 伊藤藤治
 司書 松田敬一郎
 司書補 坂口のふ
 職員 豊岡和子
 " 島上昌子
 " 品川寿子
 " 府川洋子
 " 副島光恵
 アルバイト 竹浦クニ子
 " 高木皓子
 " 松本悦子
 " 森田洋一

＜神学部分館＞ 福岡市干隈 西南学院大学神学部構内
 施設 鉄筋コンクリート3階建の神学部校舎に付設
 総面積 191m²
 蔵書 図書23,436冊(和書9,681冊 洋書13,755冊)
 全開架 雑誌127種 数聞1種 視聴覚資料29点
 図書費 昭和40年度予算100万円
 職員 分館長 三善敏夫
 司書 田口欽二

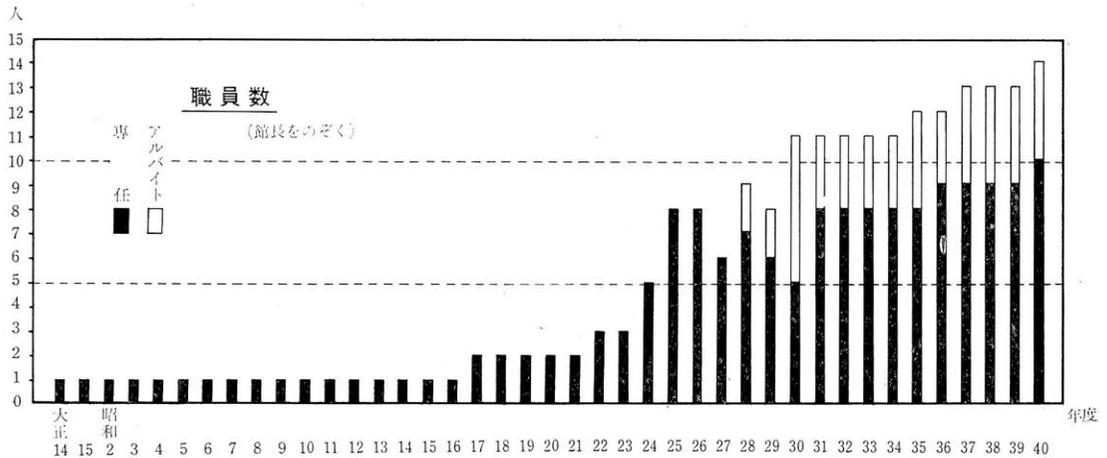
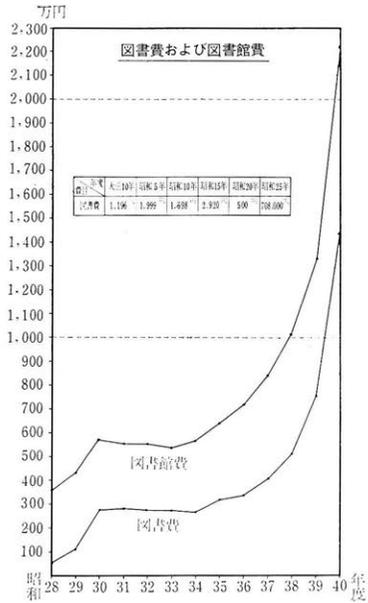
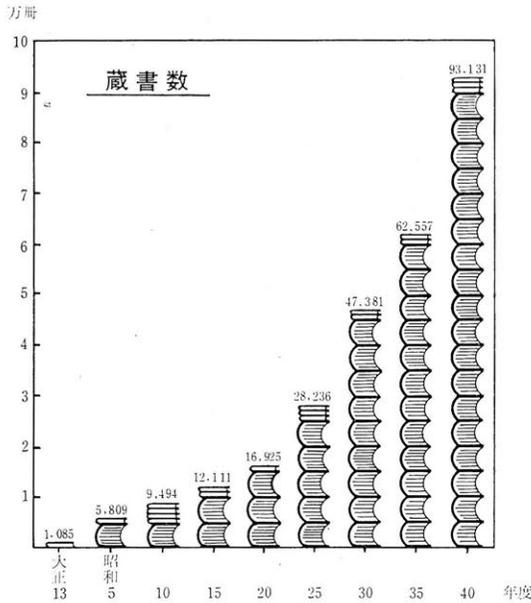
＜短期大学部分館＞ 福岡市西新町 西南学院大学構内
 施設 木造2階建の校舎に付設 総面積78m²
 蔵書 図書5,836冊(和書5,601冊 洋書235冊)全開架
 図書費 昭和40年度予算40万円
 職員 分館長 村上寅次
 職員 本藤政代

西南学院全蔵書数

(41. 3. 31現在)

大 学 本 館	93,131冊
" 神学部分館	23,436冊
" 短大分館	5,836冊
" 学術研究所	17,261冊
高 校 図 書 館	13,942冊
中 学 校 図 書 館	6,086冊
合 計	159,692冊

..... 図書館の移りかわりをグラフで見よう



▶ ニュース NEWS お知らせ INFORMATION

○50周年記念資料展示会

5月11日(水) 午後12時30分から午後5時まで
 12日(木) 午前10時から午後3時まで
 於 大学3号館2階201号室
 学院創立以来50年間にわたる色んな記録や写真その他の資料が展示される。百聞は一見にしかず。

○文部省より大学図書館の改善充実について要望

昨年11月末に行われた図書館視察委員の实地視察に基づき、文部省から大学図書館の改善充実について次のような要望がなされた。本館ではこの要望にそって改善充実を図るつもりである。
 1) 図書館資料を中央図書館に集中して重複をさけ、

殆ど研究室に分散固定化していない。今後ともこの体制の継続を望む。

ロ) 職員の質の向上のため、特に若い層にも研修の機会を与えることが望ましい。

ハ) 参考奉仕係員を配置する必要がある。

ニ) 文献複写装置を整備すべきである。他。

○卒論特別貸出について

卒業論文作成のための特別貸出は本年度から通常の貸出の外に、3冊1カ月間借出せることとなった。

○ Law Reports の購入

イギリス判例の集大成である Law Reports が、私大助成金の補助を得て図書館に備えつけられた。

昭和40年度 図書館統計

▶どんな内容の本がどれだけ増加したか

(昭和40年度増加冊数)

Table with 12 columns: 区分, 内容, 総記, 哲学宗教, 歴史, 社会科学, 自然科学, 工学, 産業, 芸術, 語学, 文学, 計. Rows include 和, 洋, 計, 前年度.

▶雑誌や新聞, 視聴覚資料はどのくらいふえたか

Table with 6 columns: 区分, 定期受入雑誌 (購入, 寄贈), 定期受入新聞 (購入, 寄贈), 計. Rows include 和, 洋, 計.

Table with 3 columns: 視聴覚資料 (レコード, スライド, 計). Rows include 21, 1, 22点.

その他 マイクロプリント 1点

▶それでは, この一年間, 図書館はどれだけ利用されたか

<昭和40年度入館者数(学生)>

<昭和40年度館外貸出図書冊数(学生)>

Table with 3 columns: 学科別, 昭和40年度, 前年度. Rows include 神学科, 英文学科, 外国語学科, 商学科, 経済学科, 短大児教科, その他, 計.

Table with 4 columns: 分類別, 昭和40年度, 前年度. Rows include 0 総記, 1 哲学, 2 歴史, 3 社会科学, 4 自然科学, 5 工学, 6 産業, 7 芸術, 8 語学, 9 文学, 雑誌, 計.

入館者, 貸出冊数とも順調な伸びを示しています。そのうちでも, ここ2, 3年商学部の入館者がふえたこと, 社会科学, 英文学などの専門書の貸出しが多くなったことが特に目立っています。

—あ と が き—

本号は学院創立50周年を記念する図書館史特集号とした。僅か8頁のささやかなものではあるが, 忙しい仕事のかたわらでの調査はなかなか思うにまかせず, 従って不明な個所が相当に残っていると同時に, 誤った点も若干あると思われる。大方のご教示を得て漸次是正し

て行きたい。最後にこの小史の編纂と刊行にご協力頂いた方々に心から感謝するとともに, この小史を図書館に働く私どもの反省と新たな前進のしるしとしたい。

(山下記)